評価項目	本年度の活動と指標	達成状況	評価	成果と課題（◎成果，▲課題）	学校関係者評価	来年度に向けた改善点
愛の教育（人権教育・特別支援教育・心の教育）	○特別支援教育の充実 （個別の教育支援計画等の作成） ・すずかっ子支援ファイル（以下「支援ファイル」）の作成：100% ・児童の発達や養育の課題等について，SCや関係機関と連携した支援会議等の開催 （特別支援学級と通常学級との連携強化）	〈特別支援教育の研修・啓発〉 ・特別支援教育だよりの発行（5月・2月予定） ・職員研修：特別支援教育学習会・ミニ研修会の実施 〈支援ファイルの作成〉 ・個別懇談等で保護者と課題や支援方法の共有 ・支援を必要とする児童への支援ファイル作成100% 〈支援会議の開催〉 ・支援会議年間20回実施。引継会は新入児10名，卒業生15名について実施予定。 ・学年の課題に対応するための支援会議等を開催。 ・教室に入りづらい児童への居場所の確保として，「わかば」「わくわく教室」保健室等での対応を進める。 ・SCは，年間12回来校。保護者や児童の面談（35名）や児童観察を実施。 <特別支援学級と通常学級との連携強化> ・原担会議を4月と9月に実施。	2	◎特別支援に関する研修や保護者への便りを発行し，特別支援に対する理解を深めたり，自らの言動を振り返ったりする機会を設けた。 ◎支援ファイル作成や職員会議等での児童の情報共有が進んだ。 ◎個別懇談等の機会に，支援ファイルをもとに保護者と児童の課題や支援方法について共有することにより，そのあとの指導に活かすことができた。 ◎特別支援教育コーディネーターと担任との情報共有が進み，支援や対応について考えることができた。 ▲日常の情報共有の時間確保や有効な支援を行うための人員確保が課題。 ◎カウンセリングの日程を便り等で定期的に知らせることで，カウンセリングの申し込みが増えた。 ◎特別支援学級籍の児童数が増えているが，原担会議を定期的に開催することで，情報交換・情報共有をすることができた。	◎「わかば」や「わくわく教室」が子どもたちの居場所となり登校できることは保護者にとってはありがたい。 ◎特別支援学級では，一人ひとりに丁寧な指導がされ子どもが成長している姿が見られた。 ◎介助員等の増加等により落ち着いているように思われる。 ・「すずっ子ファイル（すずかっ子支援ファイル）」の活用や6年間を見通した系統的な指導・通常学級との連携強化を今後も期待したい。	・「わかば」や「わくわく教室」の取組について，児童・保護者へのさらなる周知を進める。 ・創徳中校区夏季学習会で行っている不登校傾向の児童や支援の必要な児童の情報交換を継続して進める。 ・「すずっ子ファイル（すずかっ子支援ファイル）」を活用し，保幼小中だけでなく，高等学校等や就労も踏まえた「途切れのない支援」につながるよう取組を継続する。
命の教育（体力向上・健康・安全）	○体力向上をめざす活動の推進 （新体力テスト実施および結果の分析と活用） （カリキュラムの見直しによる体育の時間内での子どもたちの活動時間の確保）	【新体力テスト】 ・1，2年はこれまでの弱みである「シャトルラン」「50m走」「ボール投げ」を実施，3~6年は全項目を実施。 ・授業の始めに走力向上につながる運動を行う。 【持久走の取り組み】 期間を設定し，体育の時間に全校で取り組んだ。 【カリキュラムの見直し】 教科担任制の利点を生かし，各学年で主運動が概ね同時期となるよう見直した。	2	◎長座体前屈は，多くの学年で目標値を超えた。 ▲3年生以降を見据え，1・2年は再度項目を増やすことも検討。 ◎継続的に行うことで，50m走の記録に伸びが見られた学年もあった。 ◎持久走では休み時間に自主的に取り組む児童が見られた。 ◎主運動について概ね時期を揃えたことで，用具等の準備や片付けの時間短縮が進み，運動時間の確保につながった。 ◎体育委員会による児童集会での主体的呼びかけができた。 ▲実際に子どもたちの生活の変化や体力向上につながったかの検証方法の検討が必要	・持久走のカードについて，色塗り以外の工夫があるとよいのでは。また，なわとびの取組も含め保護者へ発信してもよいのでは。 ・運動会は大きな行事なので，コロナが落ち着いた際には，地域も参加し盛り上げていければ。 ・運動会が半日開催になりさみしい面もあるが，逆に楽しむ余裕ができたので，今の形態で良いのでは。 ・体力向上に向け，準備運動で筑波大が提唱している「プラプラダンス」を取り入れて見るのもよいのでは。また，業間・昼休みに曲に合わせ楽しい活動を取り入れるという事例も参考になる。	・来年度は県の抽出校にあたっているため，全学年で新体力テストを実施する。 ・来年度より水泳指導が復活する予定。安全な指導法の確認とともに，体力向上につながる水泳指導に向けた指導の検討を行う。
	○自他の命を尊重する「命の教育」を計画的に実施 ○防災学習，引き渡し訓練，不審者対応訓練，防犯教室等の定期的・計画的実施 ○メディアリテラシーの取組推進 ・ネット・スマホ教室の実施 ○交通安全指導の徹底 （すくすくパトロールへの参加） ・毎月第1・3火曜日のすくすくパトロールへ職員の参加 （交通安全指導の徹底） ・各学年交通安全教室（6年生は乗り方指導も含む）の実施	・インターネット，SNS等，スマホ教室実施（4~6年） ・引き渡し訓練実施（各教室での引き渡し） ・不審者対応教室，防犯教室の実施 ・交通安全教室の実施（1~5年講話，6年実技） ・すくすくパトロールへ職員の参加（第1・3火曜日） 【（児童）朝食をとっているか。：93→93（保護者）94→95】 【（児童）睡眠時間は十分か。：71→69（保護者）85→87】 【（児童）家族は話を聞いてくれるか。：94→92（保護者）97→97】	2	【引き渡し訓練】 ◎今年度も実施。非常時に備え教室の場所を校舎内に常時掲示するようにした。 【交通安全指導の徹底】 ◎交通安全教室は各学年で実施。6年生は自転車の実技訓練を1月に実施予定。 ▲下校時の歩き方，マナー等について地域等から連絡を受ける機会が増えた。 ◎すくすくパトロールは児童や保護者，地域に対する安全・注意喚起の機会となっている。 【スマホ教室】 ○外部講師による講習をきき，SNSで気をつけることなどを知ることができた。 ▲SNS利用に関するトラブルや指導が増えている。（数件） ▲どの学年もゲーム課金・アイテム交換等のトラブルが増えている。 【避難訓練】 ▲コロナ禍の中，第1次避難（机の下に隠れる等自身の安全確保）のみの訓練になっている。第2次避難（安全な場所への避難）を含む総合的な訓練ができていない。 ▲不明者がいたときの対応なども具体的に考えておく必要がある。	▲下校時の歩き方について，地域からの情報を保護者へ伝えてもよいのでは。 ・引き渡し訓練については，誰が行ってもスムーズに引き渡しを受けられる家庭内で相談できるとよい。 ・登下校中の災害発生時は地域の支援が必要。引き渡し訓練等を参観日と一緒に実施し，地域・保護者も巻き込み防災・安全について意識を高めていけるとよい。 ▲6年交通安全教室中止は残念。延期できれば。1年生の下校指導で保護者が付き添う際，保護者が喋っていたり歩くのが遅かったりする。 ◎手洗い・うがい励行は今後も続けてほしい。 ◎ネット・スマホ教室は今後も続けてほしい。また，保護者の意識調査を実施し問題点を探るのも良いのでは。 ・スマホ等のトラブルについては，学校での指導だけでなく家庭での見守りや管理も重要	・コロナ禍で，この3年間2次避難まで行う避難訓練ができていないので，感染法上の5類への移行を踏まえ避難訓練を実施する方向で検討したい。その際，児童が校舎内に残された場合を設定した職員の動きの共有や「地域づくり協議会」等との連携を進め，より実践的なものとしたい。 ・引き続き外部講師を招いてスマホ教室を実施する。その際，保護者も参加できるような形態について検討したい。 ・不審者対応の訓練を実施する方向で検討していく。
根っ子の教育（基本的生活習慣の確立）	○心豊かで生き生きとした生活 （児童アンケート結果） ・学校が楽しい：90%以上 ○基本的生活習慣の定着 （児童アンケート結果） ・ゲームやスマホの時間を決める：80%以上 ・アウトメディアの取組を進める ○規範意識の定着 （児童アンケート結果） ・決まりを守る：90%以上	・生活チェックシートの改善 【（児童）あいさつができているか。86→86】 【（児童）テレビ・ゲームの時間を決めているか。児童75→71（6月→11月）保護者：72→77（R3→R4）】 【（児童）学校の決まりやマナーを守っているか。：94→94】 ・創徳中学校区で，年間を通じて各校で時期を揃えてアウトメディアの取組を実施 ・万引き防止教室を全学年で実施	2	【生活チェックシート・アウトメディアの取り組み】 ◎生活改善に向けた意識付け等に一定の効果が見られた。 ▲約束やルールを決めても守れないことや，スマホ・ゲーム等のメディアに触れる時間が増加し睡眠時間の確保が不十分になっていること等の課題が明らかになった。 ▲月曜日等週初めの1限目に眠そうにしている児童の増加が見られた。 ▲ゲームやSNSトラブル，課金トラブル等が前年度より顕著になった。 【規範意識の定着】 ▲廊下を走る児童等学校の決まりを守れない児童が目につくようになっている。	・基本的な生活習慣が定着することの重要性を子どもも含むみんなで理解したうえで，睡眠・食事・メディア適正使用等のリズム定着に向けた取組を進めるとよい。 ・生活チェックシートを活用し，家庭教育の重要性について保護者へ伝えるとともに連携した取り組みが進められるとよい。 ◎アウトメディアの取組を創徳中学校区で統一して行われているのが良い。 ・オンライン課会や電子マネー等保護者の見守りが必要。	・生活チェックシートは，今年度項目を精選したので，来年度は，実施期間を一週間とし，短期集中の取組とする。また，来年度も引き続き結果を集計・分析し，結果を学年通信を通して保護者へ周知することで，家庭と連携した生活改善の取組となるようにする。 ・アウトメディアの取組について，創徳中学校区で統一した取組を引き続き行っていく。
	○挨拶運動の実施 （生活委員の挨拶）	・児童会役員・代表委員会が，あいさつ運動を計画，実施した。	2	◎期間中は意識してあいさつをすることができた。 ◎1日ごとに具体的な課題を設定することで，楽しく取り組むことができた。 ◎役員・代表委員が分担して全教室にあいさつに行き，学校全体で雰囲気醸成ができた。 ▲期間が過ぎると，あいさつが少なくなってしまう。	▲挨拶週間以外の期間の継続した取組が必要。 ・朝の挨拶は元気がないように思うが，日中や帰りには元気な挨拶が返ってくる。	・児童会・代表委員を中心にあいさつ運動の取組を進めるとともに，教職員も意識的にあいさつをしあいさつの飛び交う学校の雰囲気を醸成する。
保護者・地域との連携強化	○児童・保護者アンケート実施・活用（児童4・12月，保護者11月） ○「学校だより」・HPを通して家庭や地域に発信 （保護者アンケート結果） ・学校は通信やHPで伝えている：95%以上 ○学校運営協議会の充実　（年5回） ○保育所(園)・幼稚園・中学校等や，地域関連施設(学童・EAS等)との連携・交流	・児童アンケート（6月・11月）保護者アンケート（11月）実施 ・「学校だより」の定期的な発行（22号：12月7日） 【（保護者）学校は通信やHPで伝えているか：97→97】 【（保護者）学校は地域との連携を大切にしているか97→99】 ・学校経営方針に対する学校運営協議会による承認・学校運営協議会委員の授業参観，教育活動全般に対しての協議	2	【児童・保護者アンケート】 ◎6，11月にGoogleフォーム（オンライン）で実施。結果を分析し，成果と課題等を明らかにし，学校運営に反映。 【相談，通信】 ◎SC，スクールライフサポーター（SLS）を積極的に活用。 ◎学校だより，学年・学級だより，学校HPによる発信を積極的に行った。 【学校運営協議会】 ◎毎回授業の様子等の参観を実施。 ◎活発な協議が行われた。児童の様子やメディアリテラシー・家庭学習の充実等様々な面から議論が行われ，学校経営に活かすことができた。 【地域との連携強化】 ◎創徳中学校区で保・幼・小・中の交流会を実施。 ▲感染症拡大予防の観点からEASとの交流は中止。	◎学校だより・学年・学級通信等で今後も学校の様子を伝えてほしい。 ・授業参観・学校行事等保護者・地域がともに参加できる機会を増やし，地域・保護者・学校が一体となった教育活動ができることを期待したい。 ◎学校だよりの地域回覧は，小学校の子どもがいない家庭にも情報が伝わりよい。 ・学校HPの保護者の認知状況は。 ▲地域と学校・保護者等が合同で校区の安全や環境等の課題について協議し情報共有できるとよい。 ▲SLSの効果がもっと現れるとよい。	・引き続き，学校だより，学年・学級通信や学校HP等を通して，家庭・地域へ情報発信を行っていく。 ・すくすく拡大委員会議（拡大すくすく）等の場を通して，地域・保護者と校区の安心安全についての情報共有を進めていく。 ・新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえつつ，適切に教育活動を進めていくとともに，地域との連携・交流を進めていく。
教職員の働き方改革	○総勤務時間縮減 ・1人当たりの月平均時間外労働30h以下，年360h超・月45h超の時間外労働0人， ・定時退校日の設定(月2回)と周知 ・休暇取得平均日数22日以上 ・60分以内に終了する会議 70%以上	・1h以内に終了する会議（12月現在：33.3%，昨年比-6.6%） ・定時退校できた職員（12月現在：87.5%，昨年比-3.2%） ・時間外労働時間（12月現在：月平均32.4h 昨年比+6.3h） ・平均休暇取得時数（12月現在：22.4日）	2	【総勤務時間縮減】 ◎スクール・サポートスタッフ（SSS）等の活用により，職員の業務量の削減が進んだ。 ◎会議の見直しを進め，職員会議・企画委員会の回数を削減した。 ▲コロナ禍の中，想定外の業務負担等もあり総勤務時間の縮減に向けては厳しい環境であった。 ▲職員の休暇取得は進んだが，自宅待機等を求められての休暇取得も含まれるため，引き続き「ワーク・ライフバランス」の実現に向けた取組を進める必要がある。	・SSSや学校ボランティア等の積極活用によりさらに働きやすい環境になるとよい。 ・自宅待機等の補欠について，人員不足の中大変だと感じた。ただ，子どもたちが戸惑わないような配慮も必要。 ▲定時退校をした分時間外労働時間の増加につながってはいないか。	・SSSや学校ボランティア等を活用し，引き続き総勤務時間の縮減に努めていく。